

男女共同参画啓発パンフレット

Brush up!

～私らしく生きるために～



山梨県

あなたのコミュニケーションは・・・？

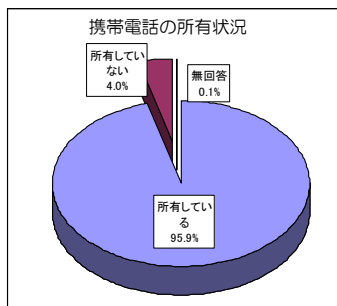
あなたは、どんな方法でコミュニケーションをとっていますか？

私たちは一人では生きていくことはできません。自分のことを分かってもらうこと、相手のことを理解することはとても大切なことです。



携帯電話やインターネットは、広く普及しています。今や私たちの身近にあり、生活の中で欠かすことができないものになってきています。

- ★携帯電話を持っていますか？
- ★携帯電話やパソコンを使って、メールや掲示板への書き込みをしたことがありますか？
- ★ブログを利用していますか？



文部科学省では「子どもの携帯電話等の利用に関する調査(H21)」を行いました。

高校2年生の95.9%が携帯電話を持っています。

平日の利用場面は、「自分の部屋などで一人有的时候(89.4%)」「自宅の居間などで家族といるとき(71.1%)」「深夜(午後11時以降)(69.9%)」「放課後に外で過ごしているとき・帰宅途中(68.2%)」等となっています。

携帯電話の平均通話時間は、10分未満の人が81.5%、平均メール送受信件数は、10件以上の人が58.4%となっており、メールの利用頻度が高いことが分かります。

インターネット利用は、39.1%の人がパソコンでは「ほとんど使用しない」のに対して、携帯電話では30分以上利用している人は58.7%に上り、携帯電話で利用する傾向が強いことが分かります。インターネット(パソコン・携帯電話)の利用目的別に、保護者の認識度を見てみると・・・

	利用率	保護者の認識度
△メールのやりとりをする	94.7%	96.3%
△音楽などのダウンロードをする	87.6%	86.1%
△他人のプロフやブログなどを見る	78.1%	36.4%
△他人のプロフやブログなどに書き込みをする	60.7%	55.9%
△小説やマンガを読む	51.6%	36.4%
△自分のプロフを公開する	44.2%	16.5%
△自分のブログを公開する	41.6%	19.1%



様々な場面で利用をしていること、コミュニケーションツールとして利用していること、利用目的によっては、保護者の認識との間にギャップがあることが分かります。あなたはどうですか？

あなたの家庭では、携帯電話などの利用にルールを決めていますか？



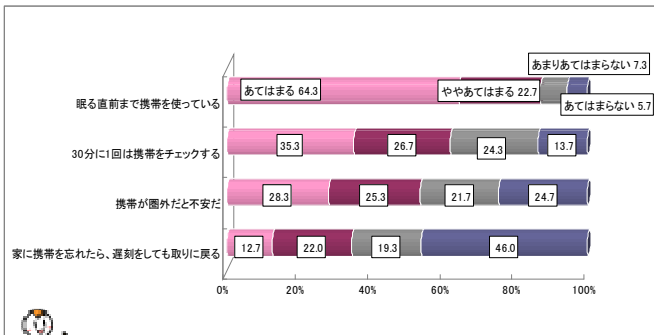
△特にルールは決めていない 子ども 54.0% 保護者 26.2%
→認識に差があります！

「インターネットについて、使用を禁止したり、利用内容を決めている」「守るべき利用マナーを決めている」「利用料金の上限を決めている」等のルールを決めている家庭が多いようですが、半数以上の子どもは「特にルールは決めていない」と思っています。保護者との認識に差があります。

こんなデータもあります！あなたはあてはまりますか？

(株式会社マクロミル「高校生の携帯事情に関する調査」(H21))

<携帯電話に関する行動や考えについて>



★「眠る直前まで携帯を使っている」に「あてはまる」「あてはまる」「ややあてはまる」の合計)と回答した高校生は、87.0%に上ります。

★「30分に1回は携帯をチェックする」は、62.0%となっています。



コミュニケーションツールとして欠かせない存在—依存ともいえる状態になっているようです…。

携帯電話やインターネットは、便利な一方、犯罪やいじめなどのトラブルにあうこともあります。あなたが被害者になることも、加害者になることもあります。メリット、デメリットを知った上で使うこと、ルールを守ることが大切になってきます。

個人情報の流出

オンラインゲーム

なりすましメール

名誉毀損罪

侮辱罪

業務妨害罪

いじめ

出会い系サイト

学校裏サイト

忘れないで！

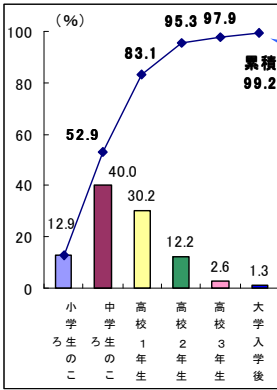
『顔を見て』『直接』話をする、気持ちを伝えることは、コミュニケーションの原点です。自分を大切にすること、そして、相手を思いやることを忘れないでください。



これからの選択～将来～

進路について意識するのはいつ頃でしょうか？

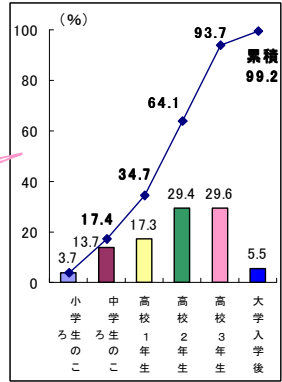
①文系・理系を意識した時期



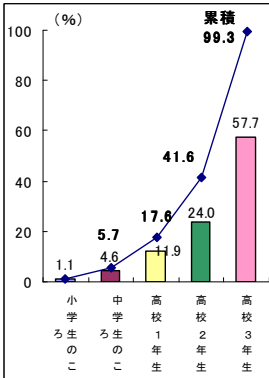
中学生までの段階で半数以上が文系・理系を意識しています！

高校生の段階で本格的に意識し、2年生までに64.1%が意識しています。

②大学での専攻分野を意識した時期



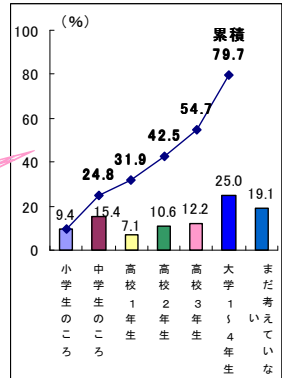
③進学する大学を意識した時期



高校3年生がピークですが、2年生以降に具体的に考えていることがわかります。

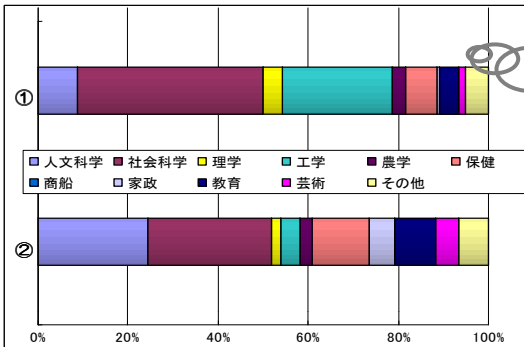
大学生時代がピークですが、高校生までの段階で半数以上が意識しています。

④職業を意識した時期



〔経済産業省委託調査 進路選択に関する振り返り調査〕(H17)(株)ベネッセコーポレーション

大学の学部別の比率は、男子と女子では違いがあるのでしょうか？



①と②のどちらが男子で、どちらが女子かわかりますか？(正解は下に！)あなたが希望している学部の比率はどのくらいですか？

人文科学、工学の比率は、男女で差が見られます。

(文部科学省「学校基本調査」(H21))

★♀②機工(4)と♀① 工学①★

職業についてどう考えているでしょうか？

「高校生と保護者に関する意識調査(H19)」((社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート)によると、将来就きたい職業が「ある」と回答した高校生は、66.1%(男子57.6%、女子73.9%)となっています。

その具体的な職業で多かったのは、「公務員(国家・地方)(7.9%)」「看護師(6.7%)」「教師(6.5%)」「製造・加工・組立などのモノづくり(5.7%)」「保育士・幼稚園教諭(5.1%)」の順になっています。

女子のトップ3

- No.1 看護師 10.9%
- No.2 保育士・幼稚園教諭 8.0%
- No.3 教師 6.0%



男子のトップ3

- No.1 製造・加工・組立などのモノづくり 12.3%
- No.2 公務員(国家・地方) 12.1%
- No.3 技術者・研究者 7.7%



就きたくない職業は、「フリーター(25.0%)」「教師(6.2%)」「政治家(5.9%)」の順になっています。男女別に見ても1位は「フリーター」、2～5位は順位の違いはあるものの、「教師」「政治家」「医師・歯科医師・獣医」「主婦・主夫」と共通の職業が挙げられていました。

また、進路選択のときの相談相手は「母親(77.7%)」「友人(47.3%)」「父親(38.0%)」の順になっています。また、62.8%の高校生が保護者からアドバイスしてほしいと考えています。



将来についてどんなことを、どんなふうに考えていますか？

高校生の皆さんは、今まさに進学や職業といった将来について考える、悩む年頃ではないでしょうか。考えたり、悩んだりすること、その時間は、将来のあなたにとって、きっとかけがえのないものになるでしょう。

あなた自身について考え、見つめ直す良い機会にもなるのではないのでしょうか。あなたが思っている「あなた」と、周りの人～友だちや家族～が思っている「あなた」は違っているかもしれません。「あなた」の発見をしてみませんか？

あなたが思う「あなた」

友だちが思う「あなた」

家族が思う「あなた」

どんな「あなた」が見えてきましたか？

「好きなこと」「興味があること」「挑戦してみたいこと」「苦手なこと」「気がつかなかった自分」・・・そこからあなたの可能性が広がります。

★先輩に聞いてみました！

山梨大学医学部附属病院（看護師）
5階東病棟 山本浩夢さん

あなのこと・
こなのこと・



1. この仕事に就いたきっかけは？

最初に興味を持ったのは、高校一年生のときに友人に誘われて「一日看護師体験」に参加したことです。当時は男性でも看護師ができることを知らず衝撃を受けました。その後、自己の進路を考える上で、人と関わる仕事がしたいと思い、看護学校への進学を決めました。

2. 女性が多い仕事(職場)で、不安などはありませんでしたか？

看護学校時代から女性が多い環境だったので、職場にきてからは、それほど抵抗はなかったです。ただ、学生時代は女性の多い環境になれるまで少し緊張していたような気がします。勤務先はすでに男性の先輩がいたこともあり、精神的にも楽でした。

3. 男性だから困ったこと、苦勞したことは？

業務の中では女性患者のトイレの介助や着替えや入浴の介助時に患者さんが抵抗を感じてしまうため、忙しいときでも女性スタッフの手を借りなければならず、患者さんに迅速に対応できないことです。(もちろん逆のパターンもあるのでお互い様なのですが)

4. 充実している、楽しい、この仕事についてよかったと思うことは？

夜勤もあり、勤務が不定期な上、人間相手の仕事なので仕事としては大変な部分も多いですが、いろんな患者さんと出会う中で一人の人間として学ぶことも多く、一緒に退院後の生活について考えたり、リハビリを一緒に行ったりすることにやりがいを感じます。担当していた患者さんが無事に退院していく姿を見るのが特に嬉しく感じます。

5. 今後の目標は？

他の疾患について勉強して、よりいろいろな視点で患者さんを理解できるようになり、看護研究へ参加して自分のキャリアアップにつなげていけたらと思っています。



6. 高校生へのメッセージを！

今はTVやメディアの影響もあり、以前に比べて男女間での職業選択の差は埋まってきているように感じます。性別の違いはあっても、お互いにカバーしあうことでより良い方向に進むように感じます。「男性だから」「女性だから」といった先入観を持たず、いろいろな目線で物事を見るようにしてってください。いろいろな事に関心を持って、自分の本当にやりたいことを見つけてってください。



山梨県警察本部刑事部科学捜査研究所
化学第一係 古屋寛子さん

1. この仕事に就いたきっかけは？

大学時代に参加した学会で、科学捜査研究所研究員の方に話を伺う機会がありました。当時、ただ闇雲に研究を行っていた私にとって、社会が必要としているニーズと自分の行っている研究とが、一本の線で繋がる感覚がしました。そのことが、この仕事を強く希望するきっかけとなりました。

2. 男性が多い仕事(職場)で、不安などはありませんでしたか？

仕事の上で、男性の多い職場環境であることに対する不安は全くありませんでした。しかしながら、この仕事を一生続けていきたいと考えたとき、結婚や育児で長期間仕事から遠ざかる日がいざ訪れるだろうということに対する不安はあります。

3. 女性だから困ったこと、苦勞したことは？

「女性だから」ということで特別困ることや、苦勞することはありませんが、やはり男性と女性とでは体力面で持っているものが違うな、と感じることはあります。努力で補える部分は精一杯努力しますし、女性だからこぞできることということに関しては、特に意識して取り組むように心掛けています。



4. 充実している、楽しい、この仕事についてよかったと思うことは？

科学捜査研究所での日常業務である鑑定の仕事は、場合によっては人の人生を左右してしまうこともあるような、責任重大で常に緊張を強いられる仕事です。それだけに、やりがいがありますし、毎日充実していると感じています。また、日々の鑑定業務が研究活動と直結していて、その両者を並行して行えるところに魅力を感じています。そして、何よりも自分で強く希望して手にした職だけに本当に楽しい毎日を送っています。

5. 今後の目標は？

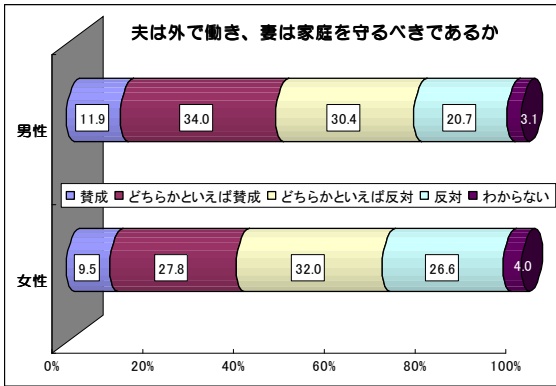
今自分にできること、そして今自分がやるべきことをしっかり考え、目の前にある課題ひとつひとつに全力で取り組んでいきたいと思えます。そして、「技術面においても、また人としても、信頼される鑑定員」さらに「世界に通用する研究者」を目指して今後も頑張っていきたいと思えます。



6. 高校生へのメッセージを！

いろいろなことに挑戦して、多くの経験をして、自分の納得できる道に進んでもらいたいと思います。選択肢の多い世の中なので楽(らく)な方に流れがちですが、岐路に立ったときには苦勞しそうな方を率先して選んで欲しいと思います。自分で考え、決断したことなら、どんな困難も乗り越えられると思いますし、困難に立ち向かうための努力は必ず飛躍の糧となると思います。

あなたは・・・？ どんなふうに考えていますか？

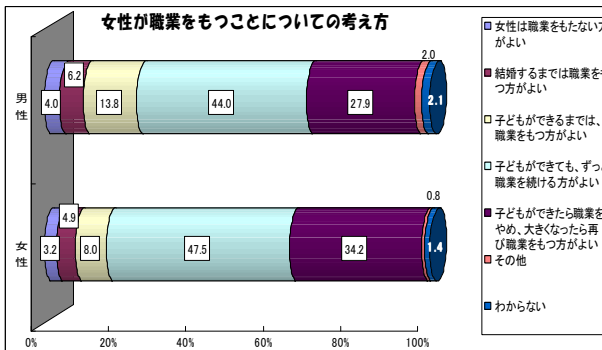
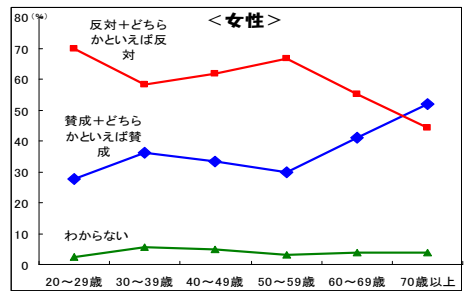
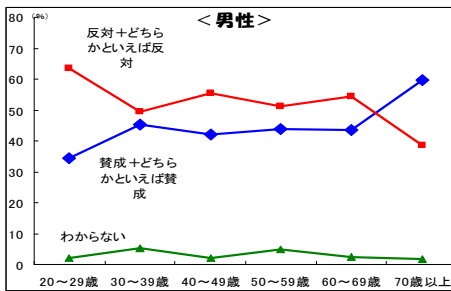


「男女共同参画社会に関する世論調査(H21) (内閣府) (以下「世論調査」)によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるか」という問いに対し、半数以上の人々が「反対」「どちらかという」と「反対」と答えています。これを年代別に見ると、下のグラフのようになります。

男性は、30歳代と70歳以上を除き、反対*が半数以上になっていますが、30～60歳代では賛成*と反対*の差があまりみられません。

女性は、70歳以上を除き、反対*が半数以上になっています。

◆ 反対*：「反対」+「どちらかといえば反対」 賛成*：「賛成」+「どちらかといえば賛成」



また、「女性が職業をもつことについての考え方」についても調査しています。

男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」の順に割合が高くなっています。

あなたはどう考えますか？

あなたの周りの大人がどんなふうに考えているか、知っていますか？

聞いて、話してみてください。